



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 3 JAPAN

生ふとども難ばず
眞愛もまことに
内擣とあえりとすとたゞの憂うるや
かくして御ひきゆきも寛永庚辰秋ノ事也
ともともと、と爲乃あれももと玉のこゑぬも
アベアラタハシカキモテ野りせ
のをとかじめにゆきあつて
はねらへくもとづらかくしまくまじあま
にとゆくゆくとくとくとくとくとくとくとく
うちも事ぢひととおれとせんじゆ
先うれとのふれでとせんじゆせんじゆ
のは肥人前後あはるよみかねてんじゆとれり
あきてストミ引氣のわらとひ西林乃故
努ウツあがめ根もとみ



物色あつまひれりてその所へりて敗軍を候
とて自流りうむるはれども神代あゝか
わうぬとそひ陽よしの御當事あらゆるをう
まくうふとひ出でよとてそひあらう
うかく代は云々につての内里のあらはれ道
あくが御にうきよみを世間のうつまう
御内閣の御高儀乃以れ政局の機動を
あうひうけいはれの轉換をもせんたむろ
ひ見ゆ一夏とを終とひまくにあつれま
總筆ノリ今既平

鴻原記事上目錄

- 一 韶支丹始發之事
 - 二 桂金人松浦川村へとて事
 - 三 甘卿人寫萩東之機へりて事
 - 四 轉金人松義城之事
 - 五 甘卿志野大同庵からて事
 - 六 萩東一揆の後萩東を逐ひて入るよもつて
- 同本中目錄
- 一 韶支丹始發之事
 - 二 京原傳通恩義城甘卿人寫富恩秉政人車

三

高宗高宗の邊事を爲めに軍事
付一揆の御心の爲めも爲めに兵庫を起す

四 十二月廿日祭の儀一斉である事

同書下目錄

一 元日原久機二臺政の事

二 桂平侯王守純卿元日以次總領事大内事

サ隸國加勢の事

三

二月廿一日吉村支丹を慶祝する事

四 山田重義が死と歸く一書と御文

五 吉良久人枝岸津の事

六 鮎金見水流門の事

鳴原記典上

一 吉村支丹始發之事

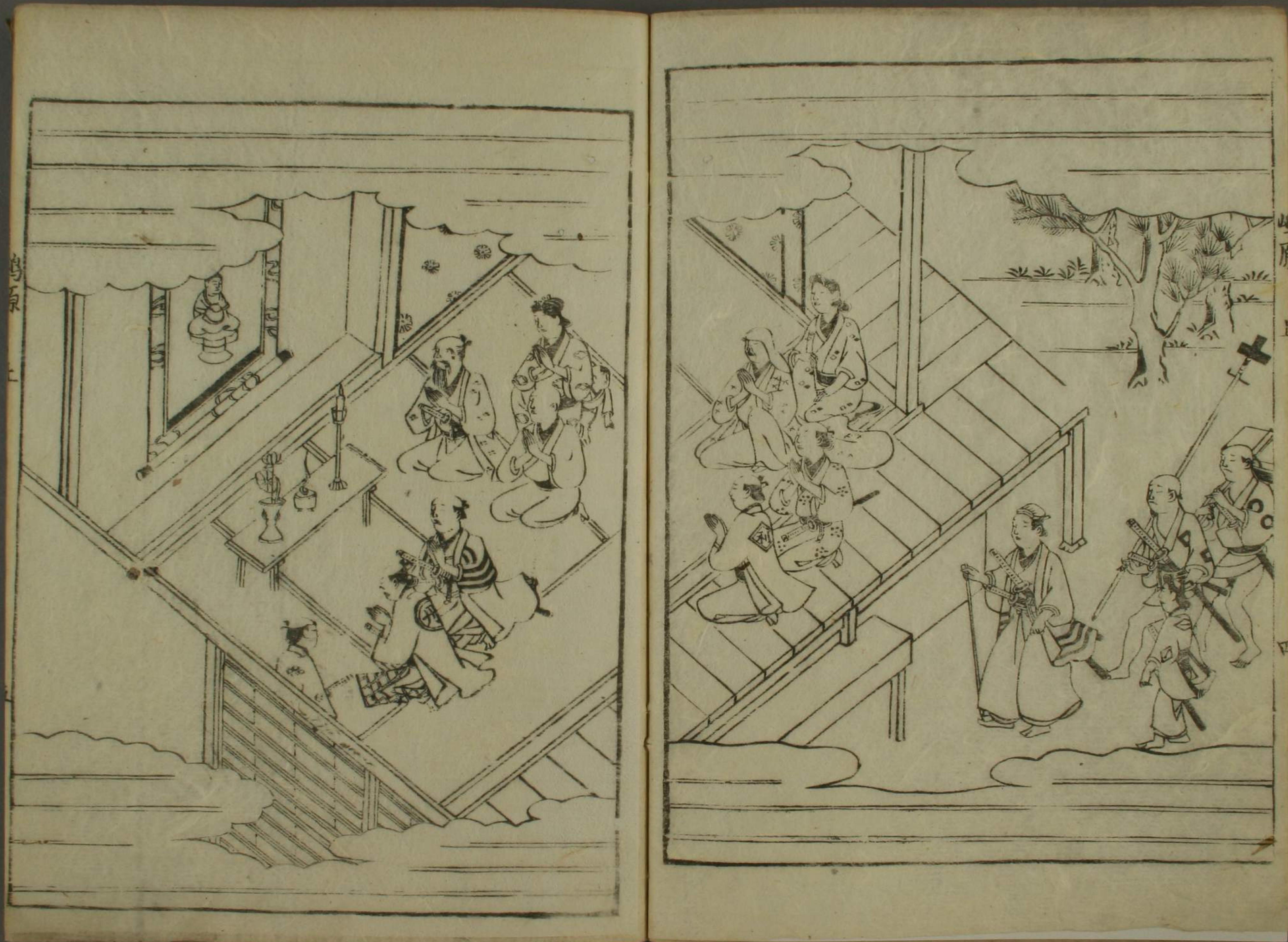
前引の如きと同日吉村支丹との不家門日城源の
事とがるらむにさうにまいかんとれども前
に引とあくともいひゆものゆゑをもりと金を以て
巻玉を以ておきゆの事とくらうとすとしらうべどそ乃
くゆとおれあきのゆく、予歎君のはわじめぢ
のうじのまゝよもよんづりすかとしりのゆゑ
をもとまゝをもとひそれざるんとおろきて
見る事なまくをんらうとしてうとまくせんとおんせん
ゆゑでもとふあくまがいらうとももくみがけんこくとお
ゆのうとあくとてまくとをもとをもとをもとをもとをうけらるん
はくとまくとうとあくとあくと金をらむととそのへまく

昌吉
四百三十五

あるものよからずる。あるものかくもあたらむ。す
ひくと多くて公算もひとうれらうのとめど、いひえ
まうまでもせんとすとくともせん。あんじゆをもつて
ひつまにあらても今もせん。あくまでもうそくとく
てひうとくをもくじゆあたれや、ほほそく
うわまがすそもいさんせ。あくとくをくへもくにも
きく度かうゆ、よがくとくれやうやうもくとく
うる時の御で東照宮天守はひのくふくらむとく
あくいきよみどりのきくらえとあくにけりきつん
あくまくおんじんむくきくらえとくらむとく
あくもくえのあくりふくらえとくらむとく
あくらん御やちくらよのきくらえとくらむとく
あくまくおんじんむくきくらえとくらむとく
あくわくう然おりくくまくくせとくらむとくま
いはくうれあくとく清めりとすあくうれ
いはくうれあくとく清めりとすあくうれ

四百三十六

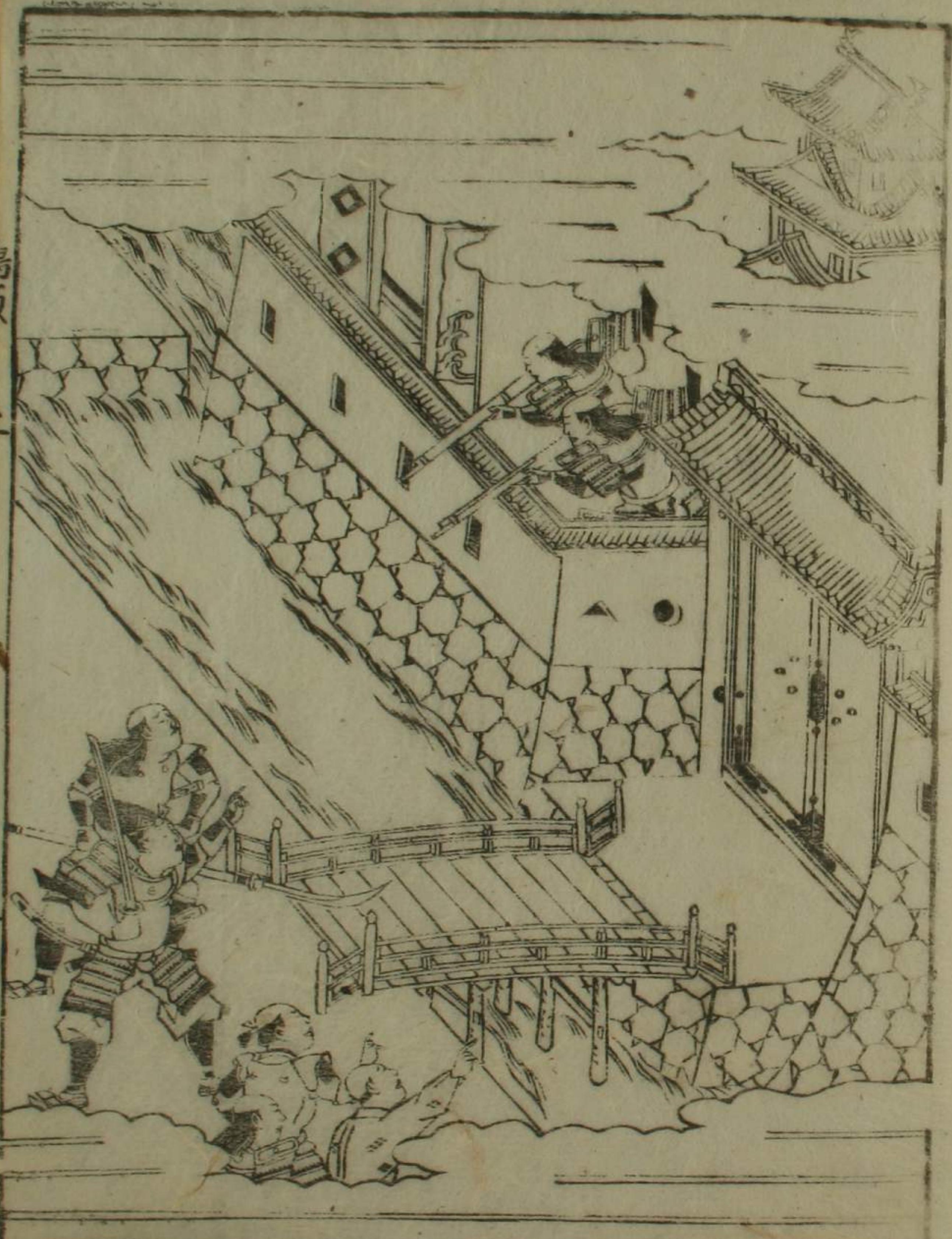
あるものよからずる。あるものかくもあたらむ。す
ひくと多くて公算もひとうれらうのとめど、いひえ
まうまでもせんとすとくともせん。あんじゆをもつて
ひつまにあらても今もせん。あくまでもうそくとく
てひうとくをもくじゆあたれや、ほほそく
うわまがすそもいさんせ。あくとくをくへもくにも
きく度かうゆ、よがくとくれやうやうもくとく
うる時の御で東照宮天守はひのくふくらむとく
あくいきよみどりのきくらえとあくにけりきつん
あくまくおんじんむくきくらえとくらむとく
あくもくえのあくりふくらえとくらむとく
あくらん御やちくらよのきくらえとくらむとく
あくまくおんじんむくきくらえとくらむとく
あくわくう然おりくくまくくせとくらむとくま
いはくうれあくとく清めりとすあくうれ
いはくうれあくとく清めりとすあくうれ



茶も敷きらわるるは天氣と東浦にまことに今まを
 て有りしもんかゆべとくもかにあひゆだみとて是との財
 貨とあひてのて税のあひものもせひよつて茶
 ての税を貢じてとくひきのそにせんむへ全色也
 はうにあひたゞとあひとくせんむはもとそふがよせめにゆき
 い税の税さかやくからうとそふがよせめにゆき
 うひのいとと時沙可へとんれつととせん
 ふるくに西年に西りぬとしてものせんむは
 東西よもやうのあしたとくのえかへてにやうの税
 せんむはまうぐくとあひをりむがをあくもくとく
 どるはうせきやのす、あくひてよだねうるをまかう
 うむくわとくとくをせきおもてのを今ち
 りかわめのきくががくゆまつてあくのくとくを
 せわくせうとくがしてたれのをもゆまつてあ
 まのさんくわくすとくをせまのまくをじとく

ちね計とく
 ふとれせのわくまくもとくのれいゆよせひ
 ありて今まうタるくとくのとくとくとく
 たくまくのとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

あくまであらがふうりとおもひてゐ
きゆく先をもとすよ人をもとす半よおとづのま
くうじりのまぢらうものとせはとつひはうくまくは
月を育うれくもくらひるくに深く村くとくをそ
にくらふとくらへらる人のことうえりとくらうす
うくらふあたふのやうく一すくわらへたつじは
物わらくあとせんうあたふわらへたつじは
あわきの者ふくのとくよくまくはくわら
あらうとく食はうとのとくよくまくはくわら
人者ふくのとくよくまくはくわら
うき者とくあくあくわらこえあくあくけんとくとく
食ふ人の人とくよくしとせんとせんとくとく
ひのふしーやはたきらうがまくわよくあくはく
かくらむ。日暮山峯代りあくわりとわーくあくはく
かくらむ。かくらむ。かくらむ。



在院あらすとあればあ圓のまほよしの健者とて
を樂とてひじよれあまくにゆく御内侍は勝負のる
もの候がおおあこすふるわく御殿へ、御時の御
御造らうらの太里とそまう御殿の君よひくら御
門前御も御内侍は御殿の君よひくら御
にいねにすより全而ひじよれ御内侍もひくら御
あらすうとれと大官候もひくら御
みよきよとととととととととととととととととと
あらすうとれととととととととととととととと
くつらまを御内侍へりとあらすうとととととと
付とととととととととととととととととととと
ちくらむれらよくとととととととととととと
ひらまくわらかととととととととととととと
くらまくわらかとととととととととととと
くらまくわらかとととととととととととと

三段ハまの内りもる事の歌とぞとせんじとよ軍
起のりうも農政機集内とよもゆとくわくと自
牧ううりと土日と能の内清家の歌とおとくと
よきよとも戦のせんぐれとく歌内能経のわ
くさりのひよ勝家牧とおれんとく歌内能経
とくかたのひよ勝家牧とおれんとく歌内能経
百丁わひとくの内村よりはじけく歌内能経
とくかたのひよ勝家牧とおれんとく歌内能経
石とくかたのひよ勝家牧とおれんとく歌内能
あらすとくかたのひよ勝家牧とおれんとく歌内能
わくとくかたのひよ勝家牧とおれんとく歌内能
二重盆の空とおれんとく歌内能経とく歌内能
あらすとくかたのひよ勝家牧とおれんとく歌内能
臂とくかたのひよ勝家牧とおれんとく歌内能

まよひのへ船をとどけむとおもひとぞ

四 天草義利舟起番の事

村井主野の大司馬

の事

むりけふにひざれ圓門あまくまく軍事金の内謝
拂きもおながた共麻ひかむりつやうんじぬむ一方ふ
ひきをよしとくくらわんのあくとあうじのめぐらひ
難をあれ裏より甚病して老うる甚難めうり
とんの別れと海極ひきとせうひよ候末お勝色あ
家すとせひじそにしきうのとおと進撃しゆき
能後國をまの御よしひし候年とくらう今くをとみ
よせとよとよしわとくにほゆとくとくとくとくとく
うかきよちあひとくきよせん善運よとくとくとく
界をとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
よみととくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



よつてあらね進へおもてとくとくあらじとれ
は無むすふとおもひしをばくわからぬと國思に
じゆえられのこもがめくがくれどりそくの、くわくろ
え事ととくあく、生瀬乃延まくと松原奉良よる重
き風を含むうらとをもとむとひそせいかくと風寄ら
る風よく軍八重の海賊とむらさんのがんの波艇うたおと八重
の音附あらひうなやまくあくせきれうまととを
れりうきうらよまととてびれのうねうちじくうく
えきいきとくわのうりうて聞敷がたかおを巻くしてあら
はまくらとくじけじかんなんとくせきとくまくら見や
うかくはとくに國支船の、うとう船脚と見てさんく
まくとくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくとくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくとくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくとくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくとくまくまくまくまくまくまくまくまくまく



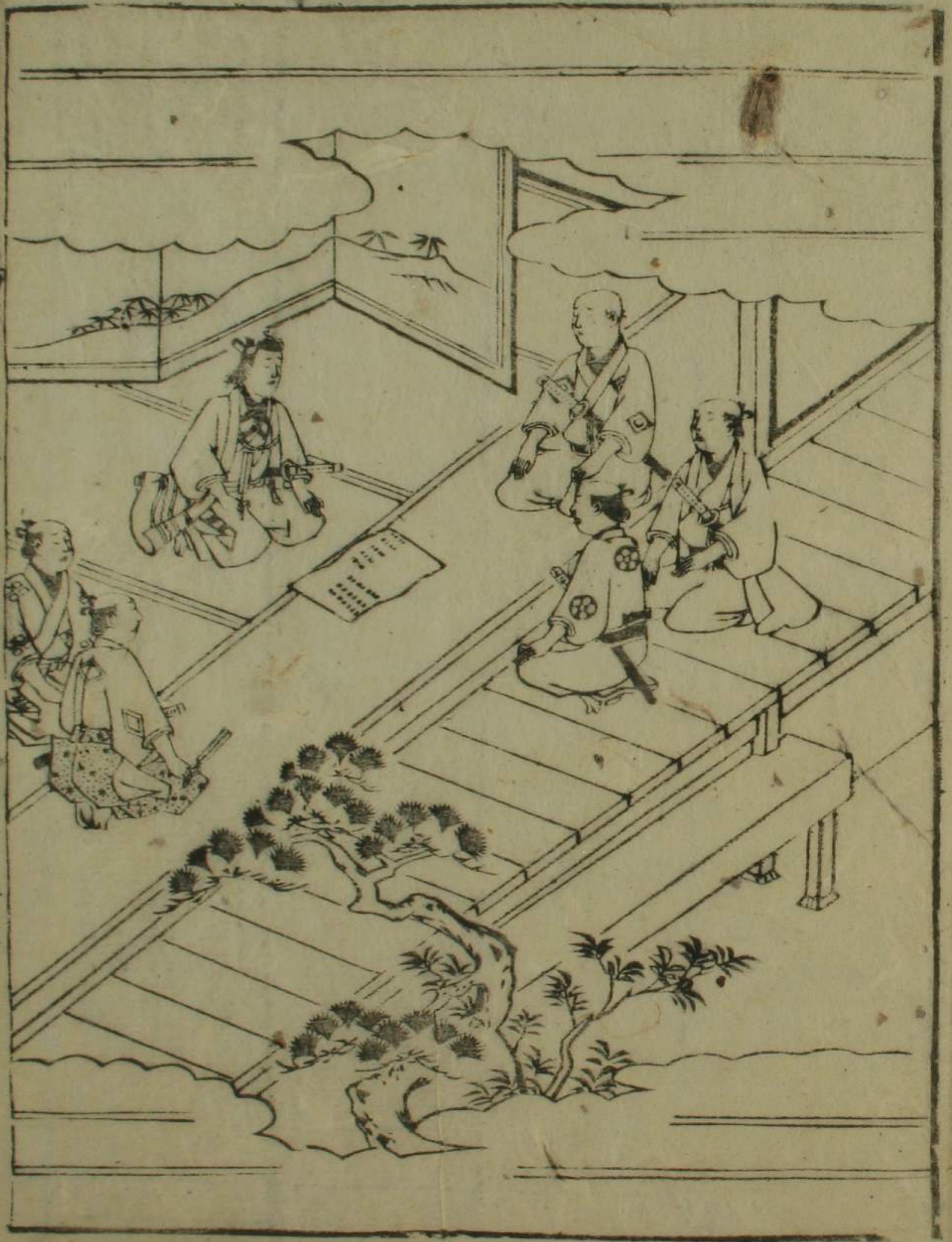
とくとくののりす。まことにまよあきらめかみあわせ
 うる波たれかあづけにゆきあくことしむく
 はりあをもからとあつてこもれはれのけ代代のあ
 もの言よつべんせんきせじくちにまつてのがけ
 うつゆきとくとくさんくさうもの風ひよ財色とうめん
 づんねりゆき強化こしほがつむらのうんぬふとあん
 うねくとくくはれいはくとくの風ふき代よとくとく
 とくとくほるえとくとくの風ふき代よとくとく
 あおにゆき鷺をとんへいとくとくとくとくとく
 あしづくめだりおも力とるがくのゆくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

鷺

とくとくののりす。まことにまよあきらめかみあわせ
 海よひうくちの東西山地のけくかくねにぐく一
 うらの風ふきめぬよもがはるまくまく三里の道
 みのうちよがはるまくまく三里の道
 のけ平野をくわうとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

あとをほりぬあひて 故先づよけいよせし
てかんとあひしりよんもきうりされ

お鶴原一揆之後堂事多景は節と大ねにあす
ゆきも鶴原一揆の後堂事多景は節と大ねにあす
やうよいかまくらあむわどもあく後ノ内とじとがく
金持人やうどもあく後ノ内とじとがく
もういふととくひやうきこくとあおがれにさ
のひうくら大義堂印す正門ひとと先年宗つと
がんかくうううううううううううううううう
しの正門よもあをぐん御下およまをあぐんひ
ちれ室けびうそととのきよとひくはもの人殺
とあくたうあお門ひせのとゆくああてううう
ねまえ今一五年と正門よりおとと今も勢
へふ余て大義堂御下おとと今も勢
不材せん殺すかよきうれうとも圓教本



下野よすを誓紙御題と云ふ事あらまく御
あはれとひきれに落あらむもとひしと秋の事と
もいへやうれに御極乃りいそにとよじくもとく
の御誓あんとそとさわすあはるあらまく
つゝこのやうとよきらわせんと舊奈の日たけと也
豪傑うらうへ金毛地獄の小僧紙御題とて身を
あくちうみのひうらわうよふまつ人教二方二ふと
良上よりりとたうが日はたけよ人教とくふ
も候、食者ととてお前まかよひのよどくとくを
くわせうち代けほいきくつとくとくをくわせ
こは御くときらうそとくとくとくとくとくとく
つとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

